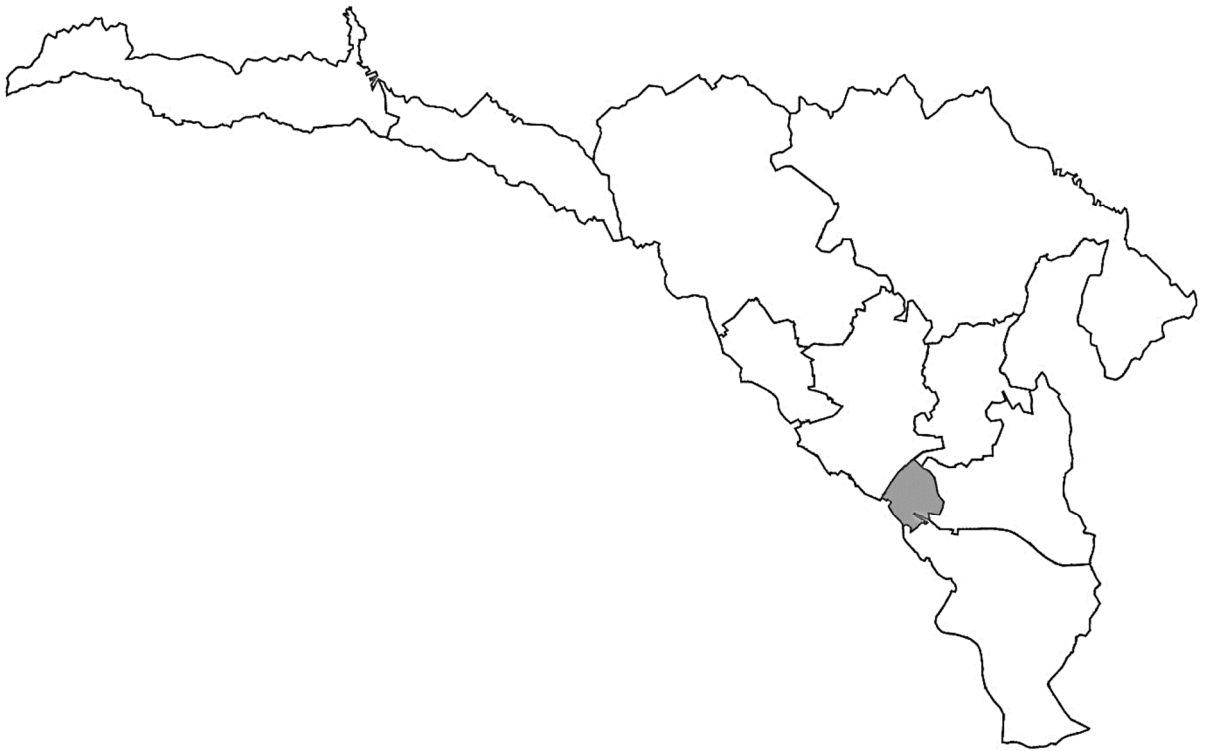


町田第一地区

(原町田地区)

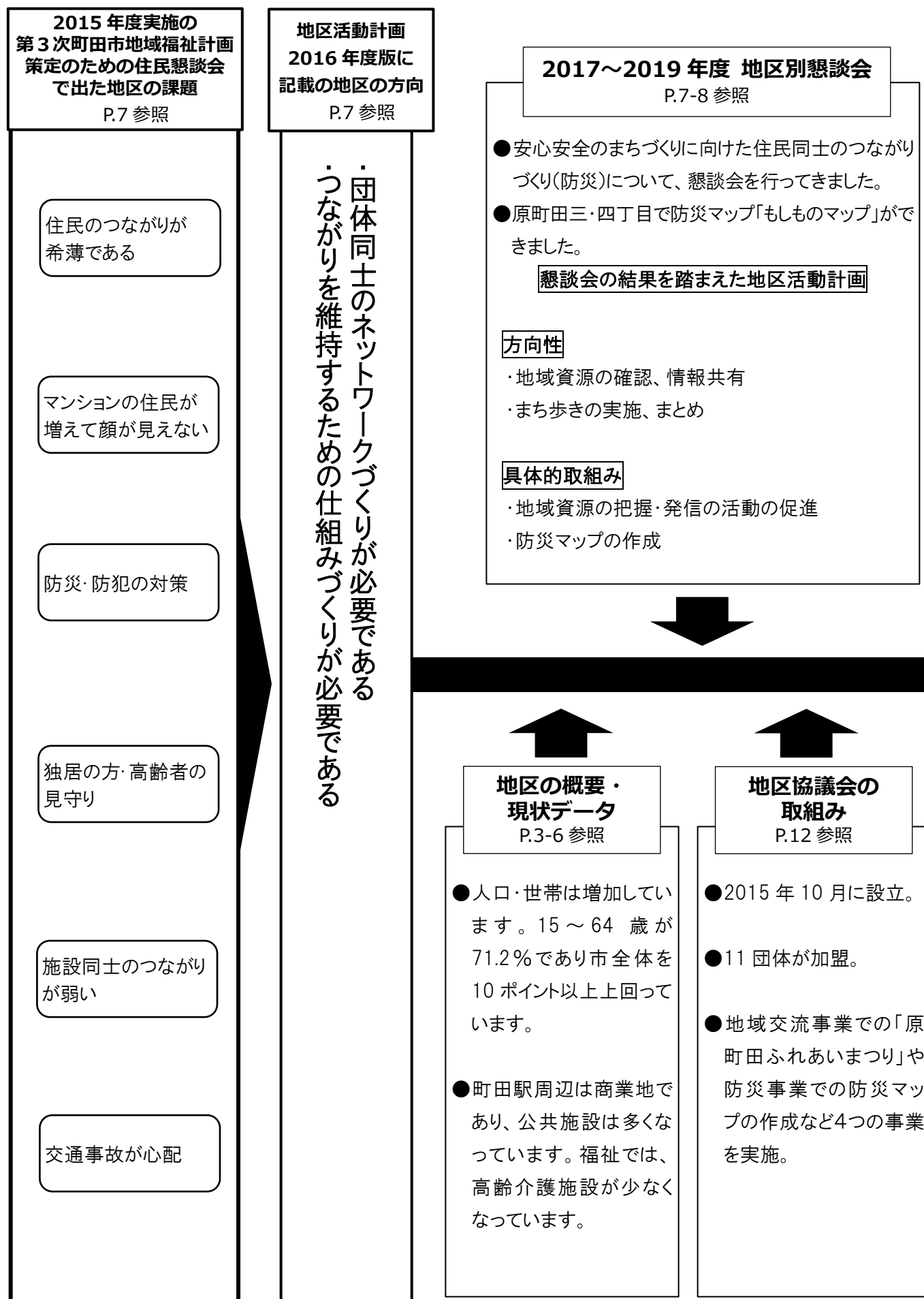
基 礎 資 料



2022 年度 町田市地区別懇談会

基礎資料につきましては、開催日当日に使用する資料ではありません。
ご参加いただく皆様に事前にお目通しいただけるよう、地区の概況を
まとめた資料となっております。

1. 過去5年間の取組み等を踏まえた地区のまとめ



**2020 年度
地区別アンケート**
P.9-11 参照

**災害・防災から見た
地域のつながりづくり**

- 災害時に地域住民同士で助け合いができることは、「隣近所の安否確認」、「避難所でのお手伝い」が多くなっています。
- 災害時に地域で助け合いができるために必要なことは、「隣近所同士の普段からのコミュニケーション」が最も多くなっています。

**アンケート結果を踏まえた
今後の方向性**

**残りのエリアの防災マップの作成
町田第一地区全体の防災マ
ップの作成**

**5年間を通して
生まれた取組み**
P.11 参照

- 原町田三・四丁目で防
災マップ「もしものマップ」
ができました。

**タウンミーティング
の結果** P.18 参照

**住みたい(なりたい)
まちの姿について**

- 子どもが安心して出かけら
れる
- 個性的な店が存在でき、
子どもも大人も楽しめる
- 多様な世代がマッチング
できて関わり合える

**過去5年間の取組み等を踏まえ
見えてきたこと**

◆地区全体の防災マップの作成を契機と
した住民同士のつながりづくりの促進

- ・地区別懇談会では、安心安全のまちづくりに
向けた住民同士のつながりづくりが議論さ
れ、まち歩き等も実施しながら、防災マップ
「もしものマップ」ができました。
- ・2020 年度の地区別アンケートでも、今後の
方向性として、まだ作成されていない地区の
防災マップづくりが示されています。

- 以上のことから、今後は、地区全体の防災
マップの作成を進め、地域住民への周知、
まち歩き等の定期的なイベントを開催し、防
災をきっかけにした普段からの住民同士の
つながりづくりを促進することが重要と考えら
れます。

◆地域活動団体同士の交流の場づくりの
促進(オンラインも含む)

- ・市民アンケートでは、地域活動・ボラン
ティア活動に参加している人も多く、2016 年
度の地区の方向では、団体同士のネットワー
クづくりが示されています。
- 以上のことから、今後はオンラインも活用し
ながら、地域活動団体同士の交流の場づく
りを促進することが重要と考えられます。

◆住民の特技や趣味を活かせるマッ
チングシステム構築に向けた検討

- ・市民アンケート調査では、地域活動・ボ
ランティア活動に参加している人も多く、地
域活動等に参加しやすくなる条件として、
趣味・特技を活かせることが多くなってい
ます。また、住民同士の協力関係を調整す
る人や機関が求められています。
- 以上のことから、今後は、住民の特技や
趣味を活かし、支える人と支えられる人を
マッチングすることができるシステム(人・機
関等)の構築に向けて検討を進めることが考
えられます。

市民アンケート調査
P.13-17 参照

- 住居形態は持ち家(集合住宅)が6割以上を占めており、
家族構成は「ひとり暮らし」と「夫婦のみ世帯」の合計で5
割を超えています。隣近所とのつきあい、町内会・自治会
活動への満足度は低くなっており、住民同士の協力関係
が必要と考える人の割合も市全体より低くなっています。
- 駅も近く商業地もあることから、買い物や交通、医療体制
への満足度は高く、安心して暮らすためにも、そこを重要と
考えています。一方で、隣近所とのつきあい、町内会・自
治会活動を重要と考える人は少なくなっています。
- 地域活動・ボランティア活動に参加している割合は市全体
よりも高く、現役世代が多いことから参加していない理由は
「仕事・家事・介護で忙しかったため」が5割を超えています。
参加しやすくなる条件は、自分の特技や趣味を活かせる
ことが重視されています。住民同士の協力関係を調整す
る人や機関を検討していくことが重要と考えられます。

2. 地区の概要・現状データ

＜町田第一地区の該当町名＞

原町田 1～6 丁目

（１）５年間の地区の変化と市全体との比較

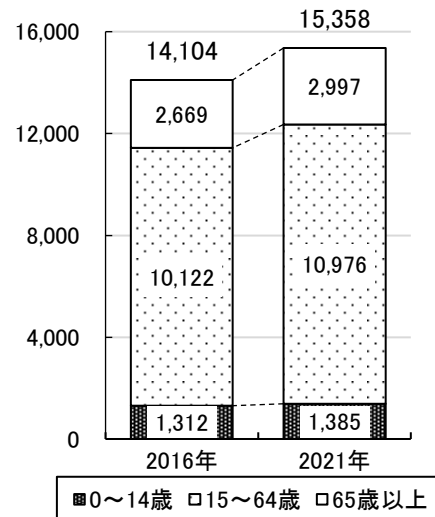
＜５年間の地区の変化＞

- 地区内総人口の増加（P.4「地区内総人口」参照）
- 世帯数の増加（P.4「世帯」参照）
- 65歳以上、75歳以上人口（後期高齢者）の増加（P.4「人口」参照）
- 要介護認定者数の増加（P.4「要介護認定者数」参照）

＜町田市全体との比較＞

- 市全体より15～64歳の割合が高く、0～14歳、65歳以上の割合が低い（P.4「人口」参照）
- 世帯当たり人口が少ない（P.4「世帯」参照）
- 町内会・自治会連合会加盟団体への世帯加入率は、町田第一地区が低い（P.4「町内会・自治会」参照）

地区別人口の変化



（２）町田第一地区の概要

＜人口＞（2021年10月1日現在）

- 15,358人
（14 歳以下の割合：9.0%、65 歳以上の割合：19.5%）

＜特徴＞

- 町田駅周辺には大型店舗と商店街があり、にぎわいの拠点となっている一方で、芹ヶ谷公園等の豊かな自然も残されている。
- 15～64歳人口の割合が高く、その他の世代が少ない。
- 公共施設は多いが、高齢者施設・障がい者関係施設は少ない。

＜主な資源＞

- ・駅：2 駅（JR 町田駅、小田急線町田駅）
- ・地域子育て相談センター：1 か所
- ・あんしん相談室：1 か所
- ・障がい者支援センター：1 か所

(3) 町田第一地区の現状データ

		町田第一地区		町田市全体	
		2016年度	2021年度	2016年度	2021年度
人口	地区内総人口	14,104人	<u>15,358人</u>	428,203人	430,607人
	0～14歳	1,312人 (9.3%)	1,385人 (<u>9.0%</u>)	55,977人 (13.1%)	51,516人 (<u>12.0%</u>)
	15～64歳	10,122人 (71.8%)	10,976人 (<u>71.5%</u>)	261,697人 (61.1%)	262,247人 (<u>60.9%</u>)
	65歳以上	2,669人 (18.9%)	2,997人 (<u>19.5%</u>)	110,528人 (25.8%)	116,844人 (<u>27.1%</u>)
	75歳以上（再掲）	1,316人 (9.3%)	1,557人 (10.1%)	53,117人 (12.4%)	63,573人 (14.8%)
世帯	世帯数	8,253世帯	<u>9,315世帯</u>	192,005世帯	202,737世帯
	世帯あたり人口	1.71人	<u>1.65人</u>	2.23人	<u>2.12人</u>
要介護認定者数	要支援1	62人	89人	2,773人	4,170人
	要支援2	62人	77人	2,057人	2,500人
	要介護1	113人	104人	4,327人	5,435人
	要介護2	86人	80人	3,398人	3,411人
	要介護3	70人	65人	2,394人	2,734人
	要介護4	68人	89人	2,224人	2,841人
	要介護5	60人	67人	2,057人	2,131人
	合計	521人	<u>571人</u>	19,230人	23,222人
	参考:要介護認定率 ※1	19.5%	19.1%	17.4%	<u>19.9%</u>
認知症高齢者数 ※2		278人	182人 ※5	10,040人	7,286人 ※5
障がい者数 ※3	身体障がい	306人	336人	11,808人	11,544人
	知的障がい	64人	67人	3,117人	3,253人
	精神障がい	111人	147人	3,698人	5,378人
	合計	481人	550人	18,623人	20,175人
	人口に占める割合	3.4%	3.6%	4.3%	4.7%
町内会・自治会 ※4	団体数	9	9	226 (309)	220 (310)
	加入世帯数	3,404世帯	3,324世帯	89,566世帯 (103,595世帯)	83,872世帯 (98,255世帯)
	加入率	42.4%	<u>36.0%</u>	47.0% (54.3%)	<u>41.6%</u> (48.8%)

○人口、世帯数：各年10月1日現在（住民基本台帳に基づく）（総人口には年齢不詳1人を含む。）

○要介護認定者数、認知症高齢者数：各年10月1日現在

○障がい者数：2016年は10月17日現在／2021年の身体・知的は10月1日現在、精神は2月7日現在（実績値）

○町内会・自治会：4月1日現在

◆備考◆

※1 要介護認定率は参考数値（要介護者数に64歳以下も含むため）

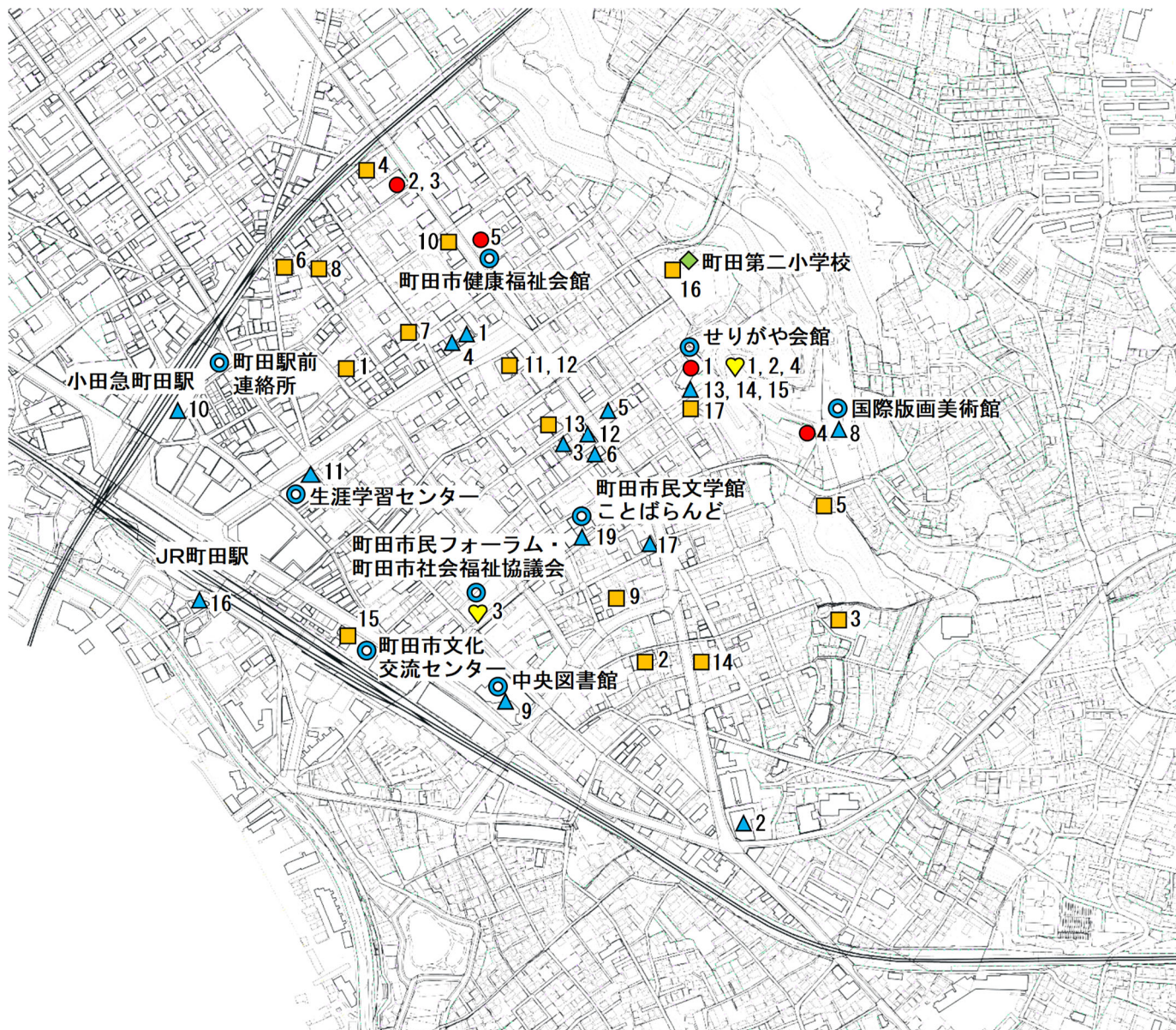
※2 要支援1～要介護5を持つ方のうち、日常生活自立度Ⅱ以上の方

※3 障害者手帳の所持数

※4 町田市町内会・自治会連合会に加盟している団体数（ ）内は非連合を含めた値

※5 2021年の認知症高齢者数は、新型コロナウイルス感染症の特例で、介護度をそのまま1年延長している方は主治医意見書が提出されていないことと、認定調査を実施していないため、前年よりも認定者数が少ない数値となっています。

3. 地区資源マップ



【地区資源リスト】

●子ども・子育て関係の施設(■)

<保育園>

- 1 市立町田保育園
- 2 こひつじ保育園（本園）
- 3 こひつじ保育園（分園）
- 4 なごみ保育園
- 5 なごみ第二保育園
- 6 太陽の子町田駅前保育園
- 7 赤ちゃんの家保育園
- 8 町田ブチ・クレイシュ

<幼稚園>

- 9 原町田幼稚園

<小規模保育事業所>

- 10 つながり保育園・まちだ
- 11 つながりづくり保育園・原町田 α
- 12 つながりづくり保育園・原町田 β
- 13 つながりづくり保育園・原町田プラス
- 14 町田なかよし保育園

<認証保育所>

- 15 にじいろ保育園町田

<学童保育クラブ>

- 16 学童21保育クラブ（本室）
- 17 学童21保育クラブ（分室）

●高齢者・介護保険関係の施設(●)

<相談>

- 1 原町田あんしん相談室

<特別養護老人ホーム>

- 2 いづみの里

<ケアハウス>

- 3 いづみの里

<介護老人保健施設>

- 4 ハピネスせりがや

<高齢者福祉センター（ふれあい館）>

- 5 ふれあいもっこく館

●障がい者・福祉関係の施設(▲)

<障がい者支援センター>

- 1 町田地域障がい者支援センター

<相談支援>

- 2 障害者生活支援センターまちだや
- 3 パーソナルアシスタント町田
- 4 町田相談支援センター・ビギン
- 5 ビバモス

<生活介護（通所）>

- 6 ATOM

<自立訓練>

- 7 原町田スクエア

<就労移行・継続支援>

- 8 喫茶けやき 1号店
- 9 喫茶けやき 2号店
- 10 まちだ名産品の店心和
- 11 公民館喫茶コーナー
- 12 富士第二作業所
- 13 町田市障がい者就労・生活支援センターLet's
- 14 町田市障がい者就労・生活支援センターりんく
- 15 地域活動支援センターまちプラ
- 16 Cocorport 町田駅前 Office
- 17 就労移行支援事業所ハンドシェイク
- 18 原町田スクエア
- 19 喫茶けやき 4号店

●ふれあいサロン・子育てサロン(♥)

<ふれあいサロン>

- 1 うりこひめ
- 2 ふれあいサロン 中町
- 3 ゆるやか健康塾

<子育てサロン>

- 4 子育てサロン たんぽぽ

【資源マップ上記載の凡例】

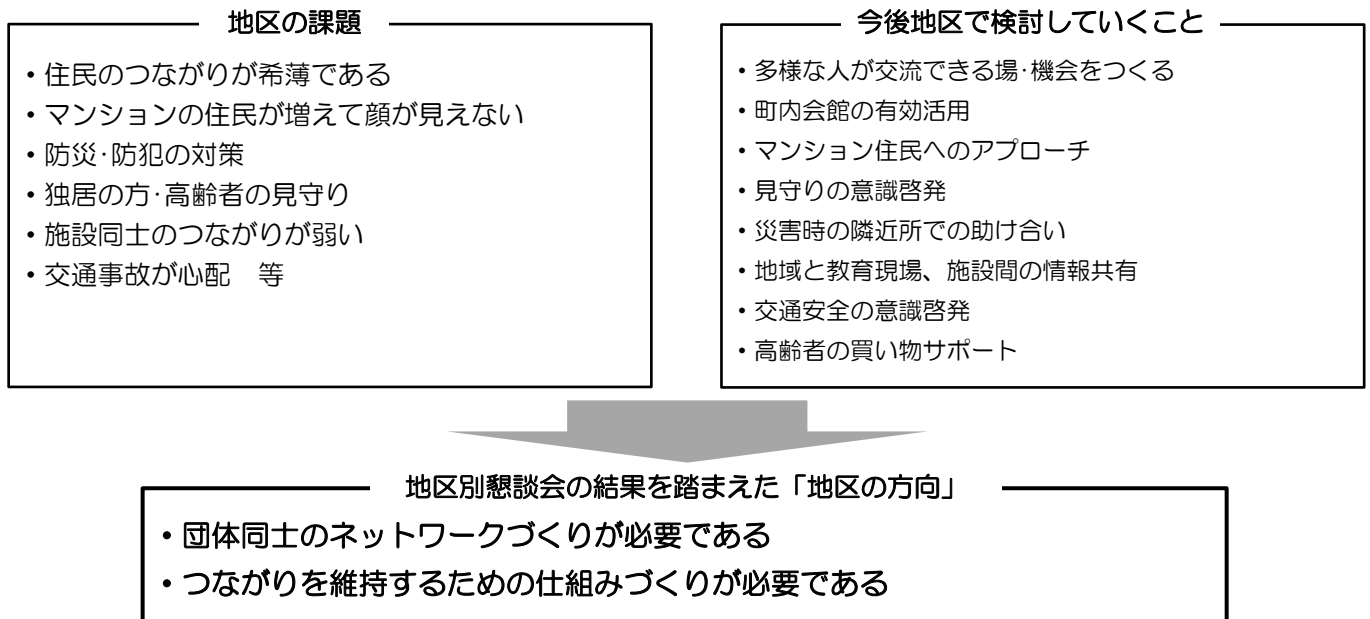
●教育施設(◆)

●その他の公共施設(◎)

4. 地区別懇談会の経過

(1) 町田第一地区 地区別懇談会

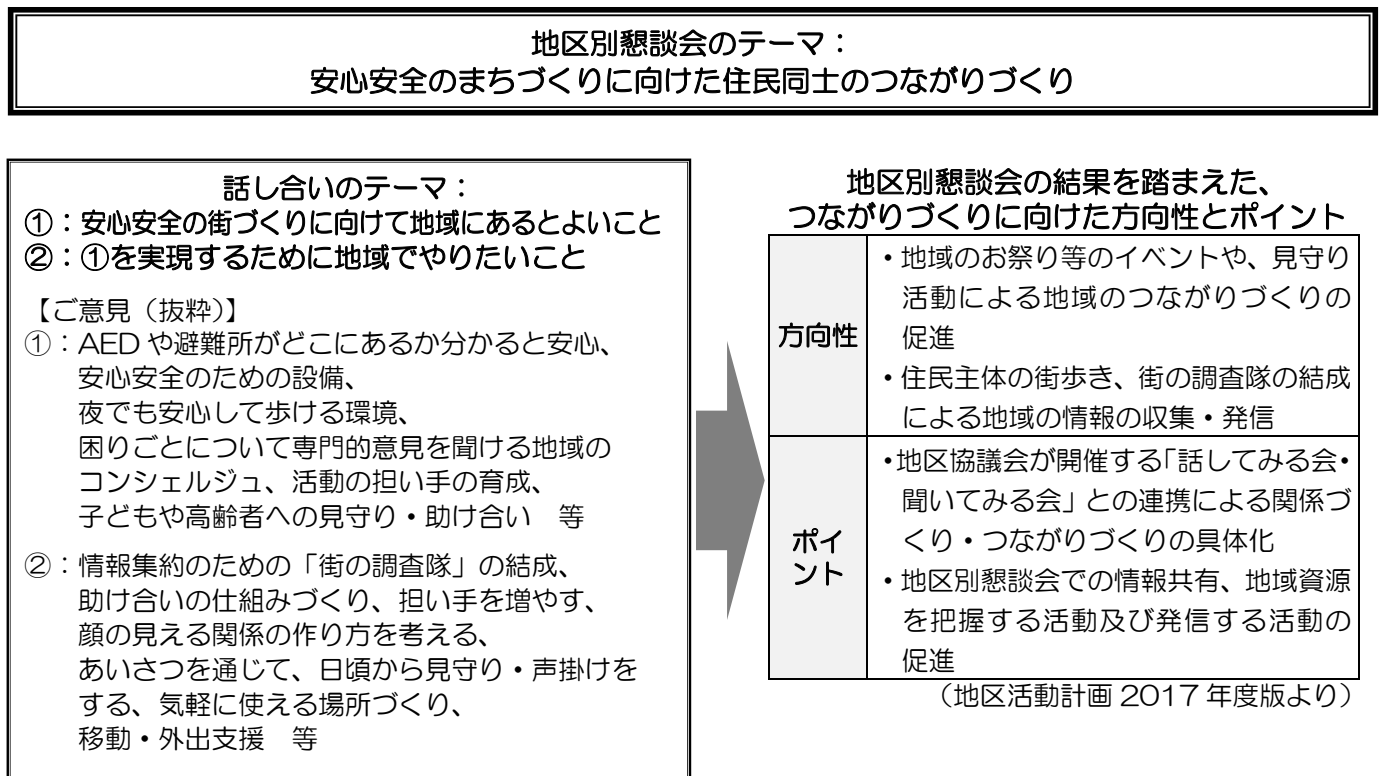
① 第3次町田市地域福祉計画策定のための住民懇談会（2016年1月）



（第3次町田市地域福祉計画 第2部地区活動計画より）

※ 2017年度以降、第3次町田市地域福祉計画、町田市社会福祉協議会の第四次地域福祉活動計画に基づいて、市内10地区で地区別懇談会を開催しています。

② 2017年度 地区別懇談会



③ 2018 年度 地区別懇談会

地区別懇談会のテーマ：
安心安全のまちづくりに向けた住民同士のつながりづくり
～防災をきっかけとしたつながりづくり～

話し合いのテーマ：

- ①：災害時のために普段から自分でできること
- ②：災害時のために普段から地域でできること

【ご意見（抜粋）】

- ①：近所とのコミュニケーション、
 配慮すべき人への支援、屋内の安全対策、
 避難への備え、備蓄、準備、
 情報交換・情報共有、防災に関する勉強
- ②：顔の見える関係づくり、
 情報共有、地域の安全確認、
 災害時に向けたマニュアル等の準備、
 日頃のあいさつ、声かけ、
 配慮すべき人への支援 等

**地区別懇談会の結果を踏まえた、
 今後の方向性と具体的取組み**

方向性	・地域資源の確認を行い、みんなで情報共有を行う
具体的取組み	・地区別懇談会の後、アンケートや報告会の開催を行います。 ・できるところから防災防犯などのマップづくりに取り組む

（地区活動計画 2018 年度版より）

④ 2019 年度 地区別懇談会

地区別懇談会のテーマ：
安心安全のまちづくりに向けた住民同士のつながりづくり
～防災マップづくりに向けたまち歩き～

防災まち歩きを実施して、気づいたこと

【ご意見（抜粋）】

- A グループ（原町田 4 丁目周辺）：
 自動販売機は沢山あるが災害時に使えるものは少ない、
 公衆電話が少ない、街灯がガラスだと危険、
 個人所有ビルの消火栓は使用できるのか、
 デパートなどに設置されている AED を 1 日使用できるように
- B グループ（原町田 5 丁目・6 丁目周辺）：
 災害対応の自動販売機の数が出なかった、
 外の公共トイレが非常に少ない、
 災害時に駅前の混雑が凄そう
- C グループ（原町田 1 丁目・3 丁目周辺）：
 寺は避難所につかえるのか、
 昔ながらのブロック塀は危険、
 境川氾濫で浸水の危険

**地区別懇談会の結果を踏まえた、
 今後の方向性と具体的取組み**

方向性	・地区別懇談会で実施したまち歩きの結果をまとめます。
具体的取組み	・原町田地区協議会と連携しながら防災マップを作成します。

（地区活動計画 2019 年度版より）

2019 年度の地区別懇談会は、地区協議会で作成を進める防災マップに活かすために、3つのグループに分かれて、原町田 1 から 6 丁目周辺の防災まち歩きを実施し、結果を地図上にまとめました。



⑤ 2020 年度 町田第一地区 地区別懇談会等についてのアンケート

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため 10 地区すべてで地区別懇談会の開催を中止し、地区ごとにアンケート調査を実施しました。
当アンケート調査では、地区別懇談会等について聞いています。

【回答者の基本属性】

図表 回答者の年齢

		35件回答
1	10代	0.0%
2	20代	0.0%
3	30代	2.9%
4	40代	11.4%
5	50代	14.3%
6	60代	31.4%
7	70代	34.3%
8	80歳以上	5.7%
	無回答	0.0%

回答者の所属団体（複数回答）

		35件回答
1	町内会・自治会	15人
2	民生委員・児童委員	10人
3	青少年健全育成地区委員会	5人
4	NPO法人	4人
5	ボランティア団体	6人
6	ふれあいサロン・子育てサロン	6人
7	小・中学校	2人
8	小・中学校PTA	0人
9	老人クラブ	4人
10	障がい当事者会・家族会	6人
11	社会福祉法人	0人
12	保育園・幼稚園	5人
13	高校・大学	0人
14	地区協議会	3人
15	自主グループ	2人
16	その他	2人
	無回答	0人

【地区別懇談会についてのご意見】

●参加しやすい日時

「平日（月曜～金曜）の午後」が最も多く、次に「土曜日の午後」が多くなっています。

図表 参加しやすい日時（複数回答）

		35件回答
1	平日（月曜～金曜）の午前	28.6%
2	平日（月曜～金曜）の午後	48.6%
3	土曜日の午前	14.3%
4	土曜日の午後	22.9%
5	日曜・祝日の午前	11.4%
6	日曜・祝日の午後	11.4%
	無回答	5.7%

●地区別懇談会で取り入れてみたいテーマ（自由回答の抜粋）

<防災、災害時対応>

- ・町田第一地区の現状で自主防災組織の確立の可能性を検証したい。
- ・女性、障がい者、要介護者など社会的に弱い方々の防災。
- ・災害時対応、地域の高齢者・障がい者施設の見学等。
- ・大規模災害での情報伝達、その有効かつ効果的な利用の検証。
- ・防災について、在宅の育児中の親子と連携をとりあう道筋の作成。

<その他>

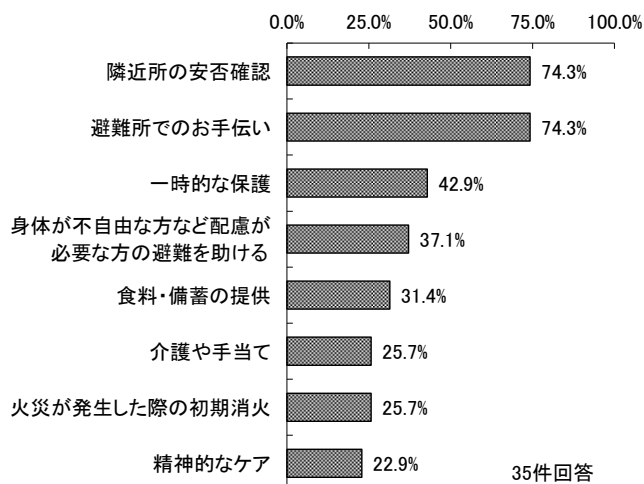
- ・高層マンションが多く、地区内でのつながり、助け合いができるアイデア。

【災害や防災から見た地域のつながりづくりについて】

●災害時の地域住民同士の助け合いでできること

「隣近所の安否確認」、「避難所でのお手伝い」が7割台となっています。

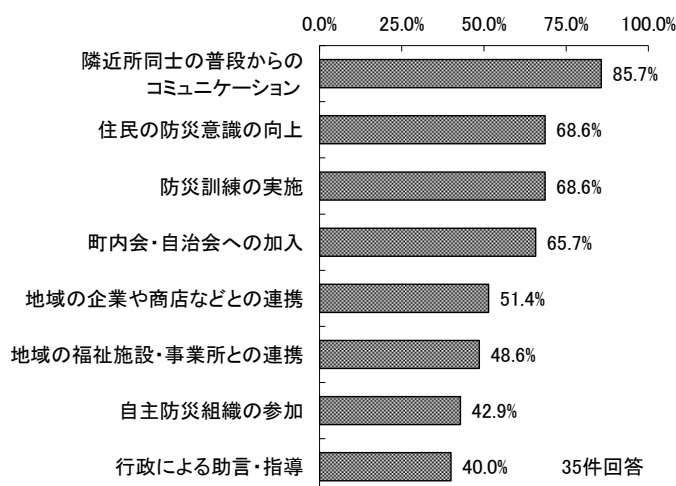
図表 災害時の地域住民同士の助け合いでできること（複数回答）



●災害時に地域で助け合いができるために必要なこと

「隣近所同士の普段からのコミュニケーション」が8割半ばとなっています。

図表 災害時に地域で助け合いができるために必要なこと（複数回答）



●災害時に地域で助け合いができるために具体的な必要なこと（自由回答）

- ・要支援者、介護者、盲ろう者の現状把握。
- ・保育側から地域に向けての発信がなかなか難しいので、地域からの呼びかけに応じながら、協力、連携を行いたい。

アンケート結果を踏まえた今後の方向性・具体的取組み

方向性	・残りのエリアの防災マップを作成します。 ・町田第一地区全体版の防災マップを作成します。
具体的取組み	・原町田地区協議会と連携しながら、取り組めるエリアから防災マップを作成します。

（地区活動計画 2020 年度版より）

（２）５年間を通して生まれた取組み

- 町田第一地区では「安心安全のまちづくりに向けた住民同士のつながりづくり」をテーマに地区別懇談会を実施しました。
- 2018 年度の地区別懇談会では、地域のつながりを考えるにあたって、災害や防災の視点で話し合いを行いました。「近隣同士の顔の見える関係づくり」「町内会・自治会活動への参加」といった普段からの顔の見える関係づくりの必要性や、「災害防災に関する情報共有」「災害マニュアルの準備が必要なのは」といった意見が出ました。
- 2019 年度の地区別懇談会では、地域の防災に関する情報共有に向けて、参加者の皆さんで３つのグループに分かれて防災まち歩きを実施しました。前半は、災害時に役立つ場所などをチェックしながら、気が付いたことをメモに取ったり写真に記録したりしました。後半は、まち歩きで確認できたことをグループで意見を出し合いながら地図にまとめました。
- 原町田地区協議会では、地域の防災力を高めるため、エリアごとの防災マップづくりを進めています。名称は「もしもの時に備える」という意味を含め『もしものマップ』としました。このマップは原町田地区協議会が主体となって作成していますが、2019 年度の地区別懇談会で行った防災まち歩きも参考にしています。2020 年度は、原町田三丁目町内会による『原町田三丁目 もしものマップ』と、原町田四丁目第一町内会と原町田四丁目第二町会による『原町田四丁目 もしものマップ』を作成しました。その後、2022 年 10 月までに、原町田五丁目町内会による『原町田五丁目 もしものマップ』及び、原町田六丁目町内会六生会と原町田六丁目若葉会による『原町田六丁目 もしものマップ』を作成しました。
- 今後は他のエリアでも『もしものマップ』づくりを進めていきます。



▲ 防災まち歩きの様子



▲ 原町田四丁目 もしものマップ



▲ 原町田三丁目 もしものマップ

5. 地区協議会の取組み（原町田地区協議会）

（１）設立日・構成団体

<設立日>

- 2015年10月14日（市内8地区目）

<構成団体>

- 町田第一地区町内会・自治会連合会（9町内会・自治会）、青少年健全育成原町田地区委員会、町田第一地区民生委員児童委員協議会、町田市中央地区商業振興対策協議会、町田第二小学校、町田第二中学校、町田第1高齢者支援センター、町田市老人クラブ町田支部、町田市社会福祉協議会、株式会社ジェイコム湘南・神奈川町田・川崎局、町田市消防団第一分団第一部（11団体）

（２）地区協議会のこれまでの主な取組み

事業名	概要	詳細（事業目的など）
広報広聴事業	・原町田地区協議会ニュースの発行（2回） ・原町田地区協議会活動状況紹介ポスターの作成	原町田地区協議会の活動内容を地区内及び市民へ周知し、地区協議会へ理解を促進する。地区内及び市内の地域社会づくりへの参加者を増やす。
地域交流事業	・「原町田ふれあいまつり」の実施	出展設営・運営やカレー作りを通して、参加団体相互の交流・親睦を深める。子どもを対象としたイベントを行うことで、日ごろ、地域活動に関わりの薄い子育て世代や祖父母の参加を促し、大人と子ども、また大人同士の交流を深め、合わせて、地域活動への参加のきっかけとする。
地域住民との対話事業	・「原町田について話してみる会・聞いてみる会」の開催	原町田地区の住民から広く意見を聞き、今後の地区協議会の取り組み検討の参考とするために「原町田について話してみる会・聞いてみる会」（ワークショップ）を開催した。また、ワークショップを通して新たな担い手の発掘や地域住民（団体）のつながりを構築する。
防災事業	・防災マップの作成	原町田地区の住民・団体が連携協力して、震災、風水害に対応できる体制づくりを進める。
お年寄りの見守り事業	・高齢者の見守り活動の支援 ・見守り対象者の調査	高齢者が地区で孤立することなく、いきいきと活躍するとともに安心して生活ができる地域づくりを進める。
子どもの見守り事業	・子どもの見守り活動の支援 ・セーフティボランティアの募集 ・見守り活動用雨衣の購入	地区内の団体や住民が連携して、交通安全や防犯等に備える体制を整え、子どもたちが安全に安心して登下校できる環境をつくる

6. 市民アンケート調査の地区別集計結果

（仮称）町田市地域ホッとプラン策定の基礎資料とするため、地域福祉に関する生活実態やご意見などを把握することを目的として、アンケート調査を実施しました。

調査対象：18歳以上の町田市内在住者 2,000人

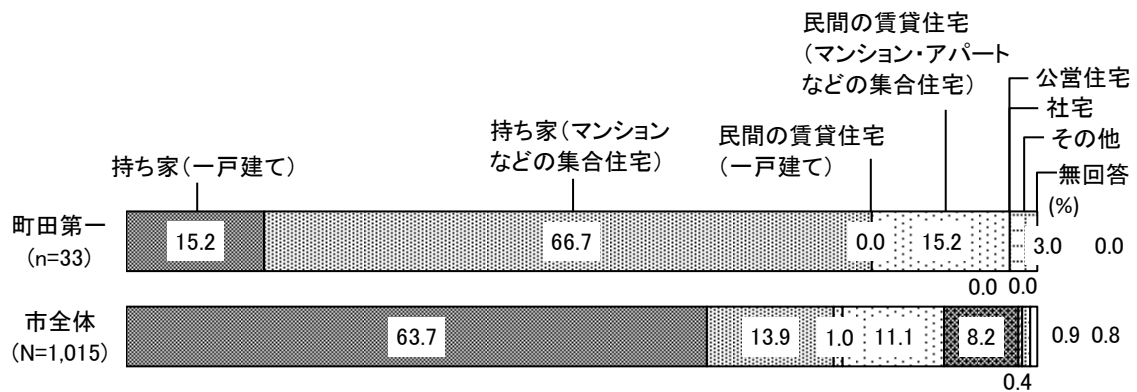
調査時期：2020年2月から3月

（1）基本属性

- 年齢は平均 56.4 歳（全体は 58.6 歳）、職業は就労していない人が 30.3%（全体は 43.8%）である。

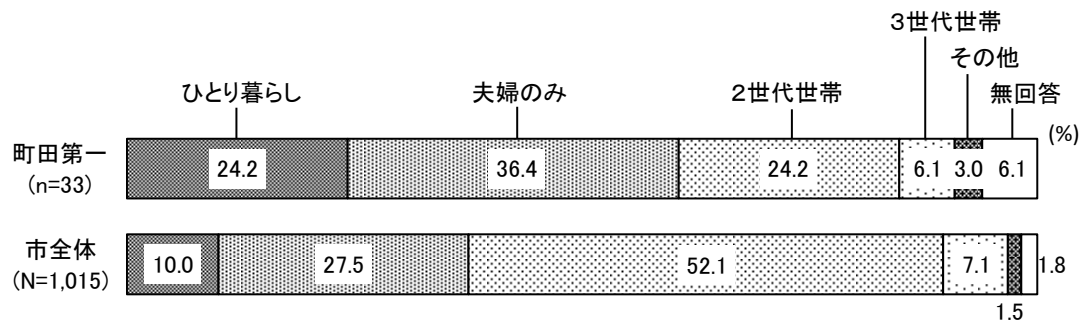
◆住まいの形態

- 住まいの形態は「持ち家（マンション・アパートなどの集合住宅）」が 66.7% を占めている。



◆家族構成

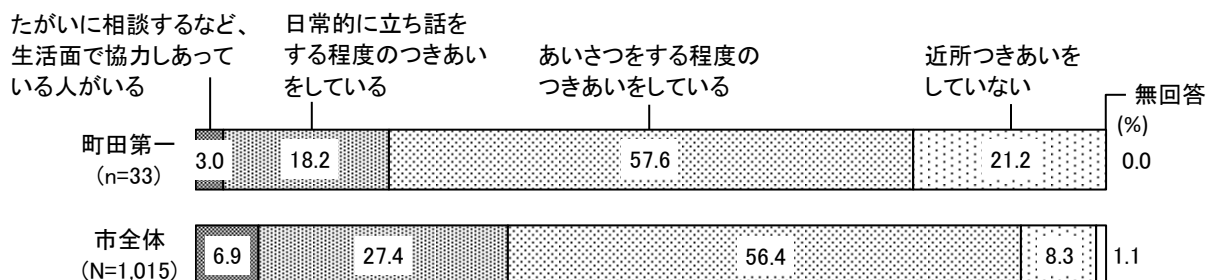
- 世帯構成は「ひとり暮らし（24.2%）」、「夫婦のみ（36.4%）」の割合が高く、全体と比較するとそれぞれ 14.2 ポイント、8.9 ポイント高くなっている。



（2）地域での暮らし

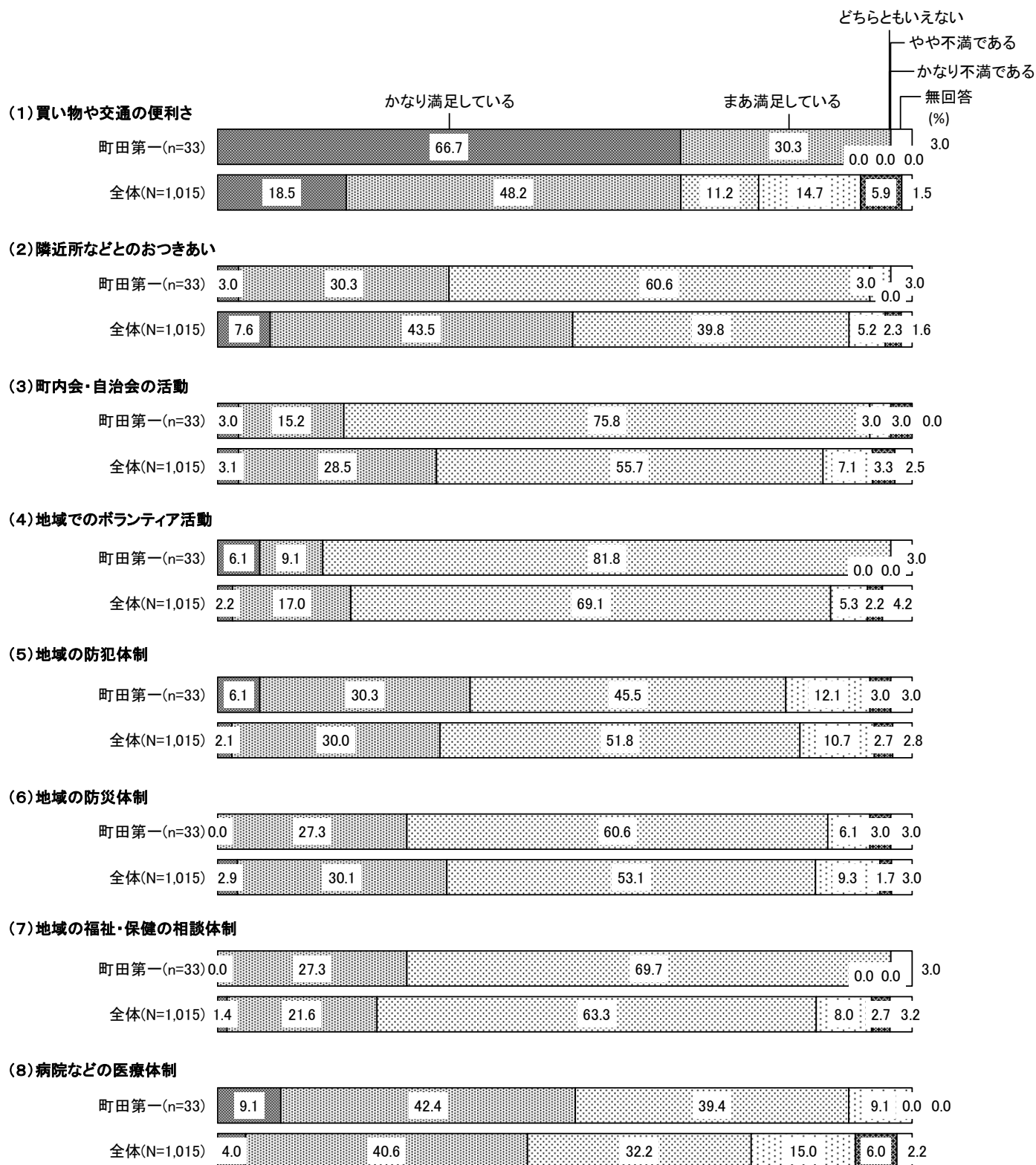
◆近所つきあいの程度

- 近所つきあいの程度は、「近所つきあいをしていない」が 21.2% であり、全体と比較すると 12.9 ポイント高くなっている。



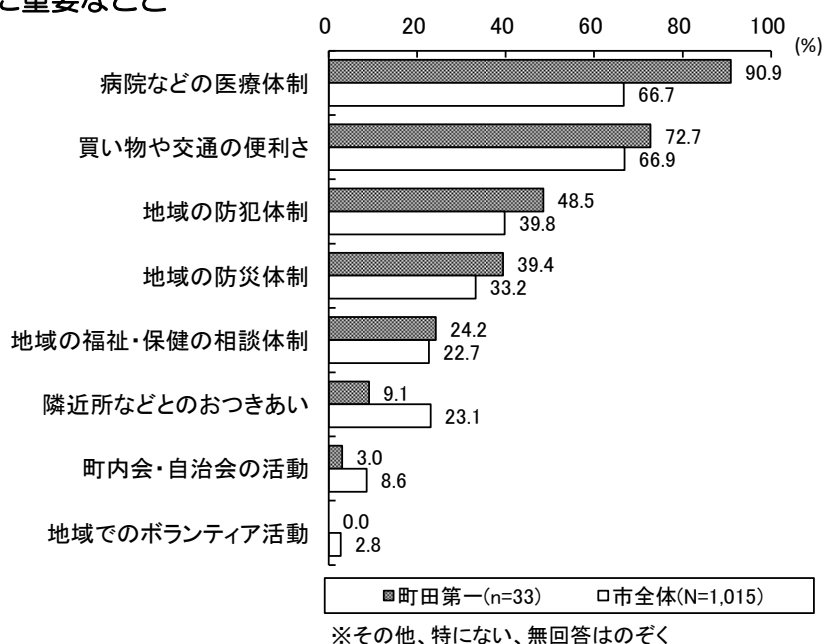
◆地域の暮らしやすさについての満足度

- ・ 地域の暮らしやすさについて、「かなり満足している」と「まあ満足している」を合計した割合（満足度）は、『買い物や交通の便利さ』で9割を超え、『病院などの医療体制』で5割を超えており、この2つの項目は全体と比較しても満足度が高い。
- ・ それ以外の項目は、満足度が40%以下であり、特に『隣近所などのおつきあい』、『町内会・自治会の活動』は、全体と比較すると10ポイント以上低くなっている。



◆地域で安心して暮らしていくために重要なこと

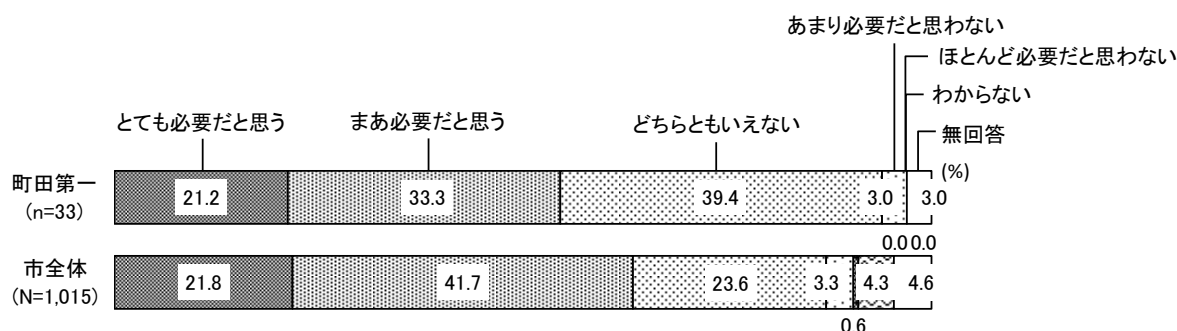
- ・ 地域で安心して暮らしていくために重要なことは、「病院などの医療体制」が最も多く、「買い物や交通の便利さ」、「地域の防犯体制」が続いている。「病院などの医療体制」は全体を 24.2 ポイント上回っているが、「隣近所などのおつきあい」は全体を 14.0 ポイント下回っている。



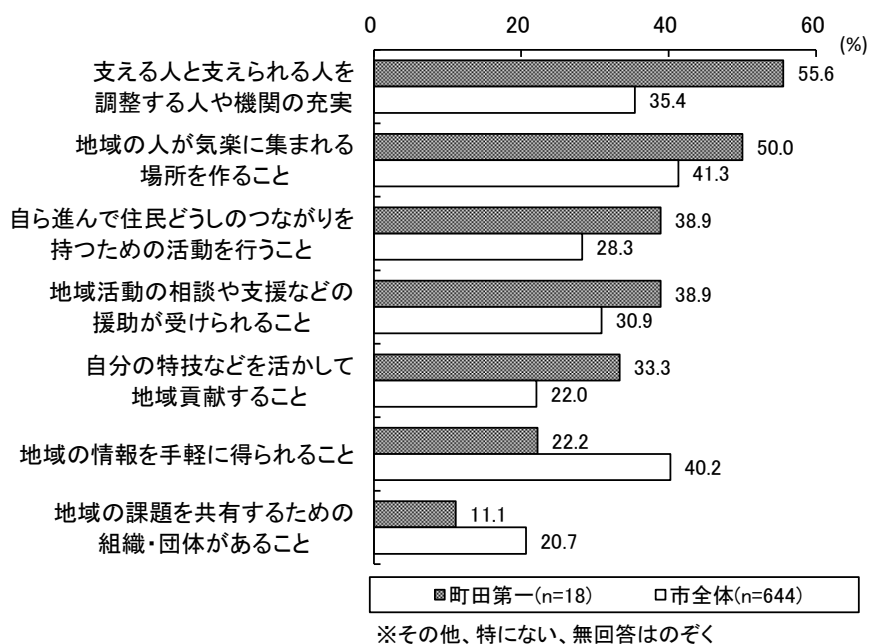
◆住民同士の自主的な協力関係の必要性、協力関係をつくるために必要なこと

- ・ 住民同士の自主的な協力関係の必要性は、「とても必要だと思う」と「まあ必要だと思う」を合計した割合は 54.5%であり、全体と比較すると 9.0 ポイント低くなっている。また、必要だと思うと回答した人に必要なことをたずねたところ、全体3位の「支える人と支えられる人を調整する人や機関の充実」が最も多く、全体1位の「地域の人が気楽に集まれる場所を作ること」が続いている。

【必要性】



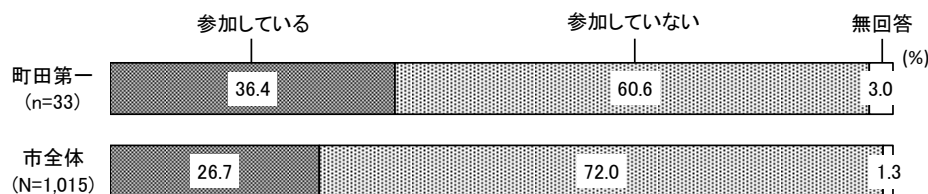
【協力関係をつくるために必要なこと】＜必要だと思う人＞



(3) 地域活動・ボランティア活動

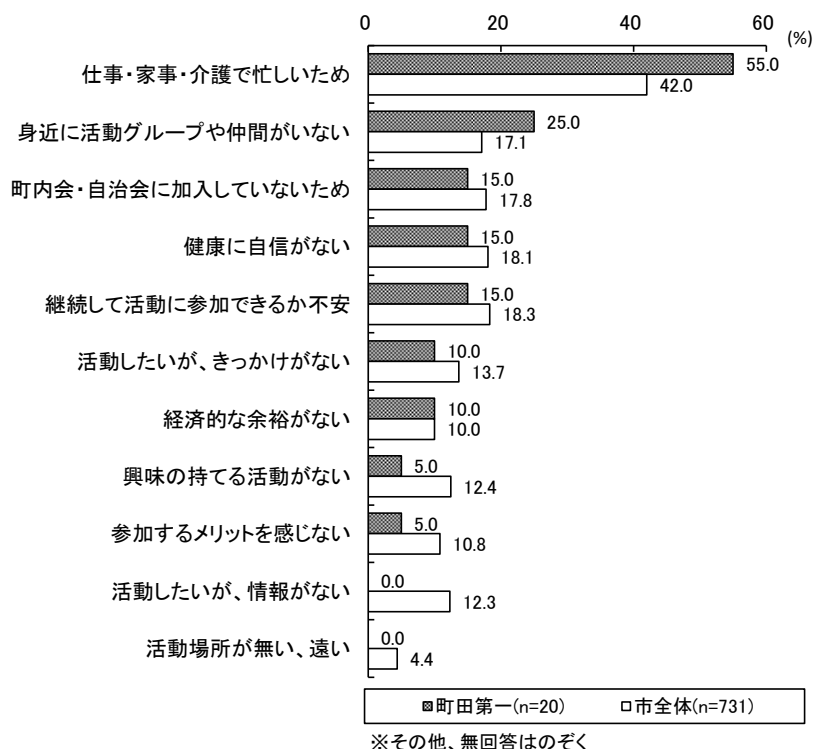
◆地域活動・ボランティア活動への参加状況

- 地域活動・ボランティア活動へ「参加している」が 36.4%であり、全体と比較すると 9.7 ポイント高くなっている。



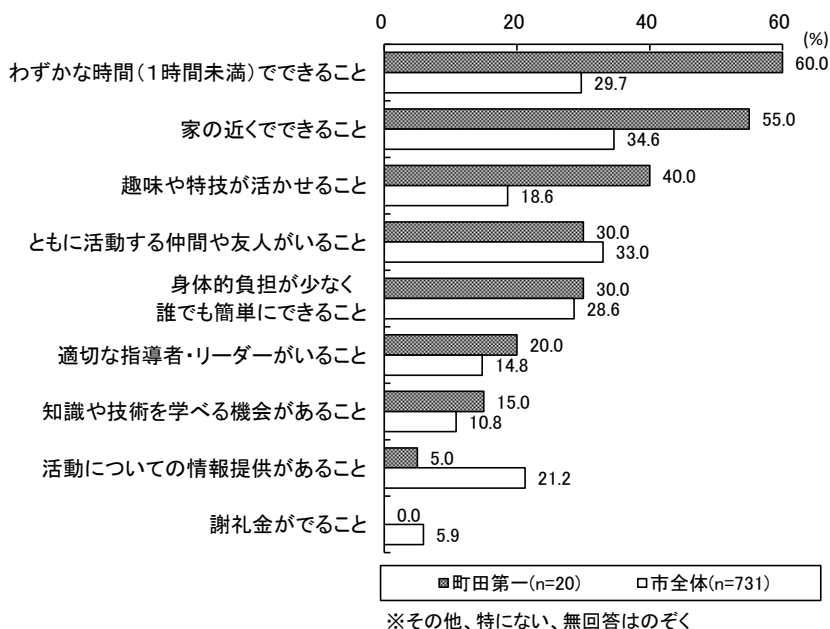
◆地域活動・ボランティア活動に参加していない理由<参加していない人>

- 地域活動・ボランティア活動に参加していない人にその理由をたずねたところ、「仕事・家事・介護で忙しいため」が 55.0%と最も多く、その割合は全体を 13.0 ポイント上回っている。次いで、「身近に活動グループや仲間がいない」が続いている。
- また、「活動したいが、情報がない」、「活動場所が無い、遠い」は 0.0%となっている。



◆地域活動・ボランティア活動に参加しやすくなる条件<参加していない人>

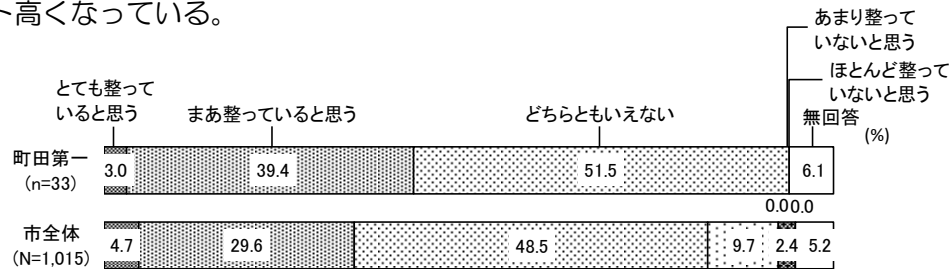
- 地域活動・ボランティア活動に参加していない人に参加しやすくなる条件をたずねたところ、「わずかな時間（1 時間未満）でできること」、「家の近くでできること」が最も多く、「家の近くでできること」、「趣味や特技が活かせること」が続いており、どの割合も全体を大きく上回っている。
- また、「活動についての情報提供があること（5.0%）」は全体を 16.2 ポイント下回っている。



(4) 福祉サービス、福祉施策

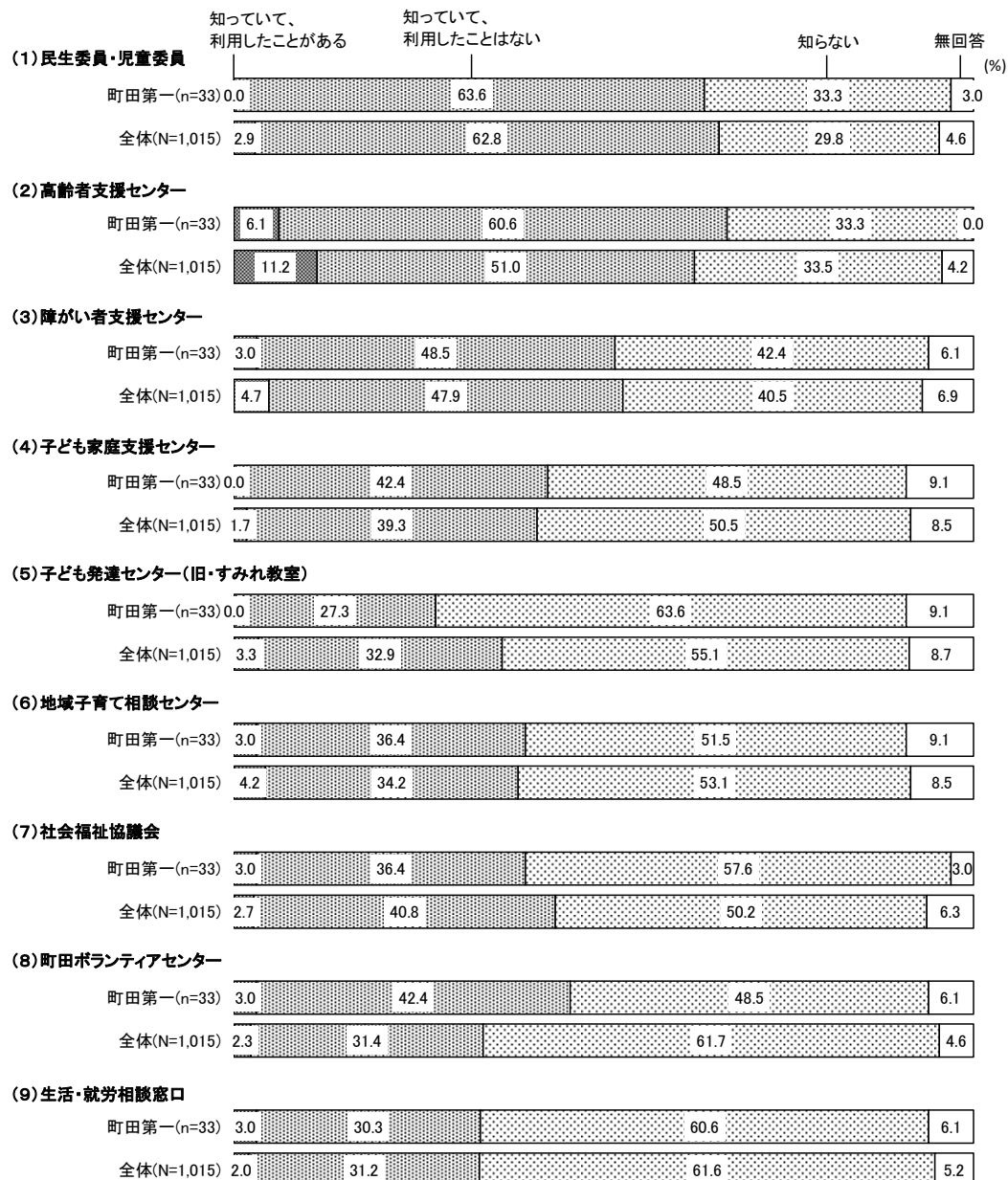
◆町田市の福祉サービスの利用環境の整備状況

- 町田市の福祉サービスの利用環境の整備状況は、町田市の福祉サービスの利用環境の整備状況は、「とても整っていると思う」と「まあ整っていると思う」を合計すると42.4%であり、全体と比較すると8.1ポイント高くなっている。



◆福祉に関わる相談窓口・機関等の認知度・利用状況

- 福祉に関わる相談窓口・機関等の認知度（「知っていて、利用したことがある」と「知っていて、利用したことはない」の合計）は、『高齢者支援センター』、『民生委員・児童委員』で6割台、『障がい者支援センター』で5割を超えている。それ以外の項目では、認知度は5割以下となっている。また、『町田ボランティアセンター』の認知度は全体を11.7ポイント上回っている。



7. タウンミーティング（地区別意見交換会）の結果

（１）実施目的・参加人数・主な参加者

<実施目的>

- 2022年4月から始まる新たな市の基本構想・基本計画である「まちだ未来づくりビジョン2040」の策定に向けて、2019年に町内会・自治会や地区協議会を対象の中心として、市内10地区でタウンミーティング（地区別意見交換会）を実施し、それぞれの地域にお住まいの方と一緒に、住んで良かったと思えるような、まちだの未来を考えました。

<参加人数（グループ数）>

- 14人（3グループ）

<主な参加者>

- 町内会・自治会、民生児童委員、青少年健全育成委員、高齢者支援センター職員。

（２）住みたい（なりたい）まちの姿とご意見

① グループごとの話し合いから出た「住みたい（なりたい）まちの姿」

【Aグループ】①何でもありでなく、子どもが安心して出かけられるまち

②個性的なお店が存在でき、子どもも大人も楽しめるまち

【Bグループ】多様な世代がマッチングできて関わり合えるまち全体が大家族

【Cグループ】愛着がもてるまち

② タウンミーティングでいただいたご意見

<子育て、子育て>

- ・子どもに初めての経験をさせることが大事。地域に身近に仕組みがある。
- ・遊び場があると子供たちが遊べる（中心市街地に！！）。
- ・子育て世帯に優しい街。

<住まい方>

- ・大家族・一緒に住む。
- ・家族とおじいちゃんおばあちゃんが近くに住む街。
- ・高齢の方同士のシェアハウスがあると良い。

<交通環境>

- ・循環バスをもっと出す、定時のバスがあると良い。
- ・車を停める場所が中心市街地に少ない。
- ・道路が狭い、休める場所が無い。

<街の姿>

- ・個性的な街（店がある）存続できる。
- ・なんでもありな街。個性がない。声を掛けられる店がある。
- ・大人が楽しいまち、いくつになっても楽しめるまち。

<地域人材の育成>

- ・リタイアしたひとたちの活用の仕組み。
- ・技術、知識をもった人の活用継続していく仕組み。

<自然環境>

- ・自然に触れられる環境。
- ・自然の中で遊べる場所が欲しい。

<愛着>

- ・町に思い出があれば愛着がわく→戻ってきてくれる。
- ・愛着できるにはお祭や遊び場「思い出」。

<その他>

- ・遠くから市内にきても目的地まで時間かかりすぎる。

（出典：各種ワークショップ等の取り組み状況報告より）

URL：https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/sinokeikau/machida_miraizukuri_vision2040/kyodokento20201101.html

8. 過去5年間で感じる地域の良い変化（強み）・悪い変化（弱み）

- ・ 2021 年度の地区別懇談会の開催にあたり（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により 2022 年度に延期）、参加希望者の方に事前アンケートとして、過去5年間で感じる地域の良い変化（強み）・悪い変化（弱み）をたずねました。
- ・ 以下は、回答いただいたご意見を表現はそのまま、主な意見を抜粋して掲載しています。

分類	地域の良い変化(強み)	地域の悪い変化(弱み)
人(世帯)	<2022 年度に回答いただいたご意見> ・ やや子育て世代が増えている感がある。 ・ 高層マンションが増えて、お子さんのいる若い世帯が増えました。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ ホームレス状態の方は増えているかもしれない。
つながり、意識	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 道での出会いの中で声かけあうこと。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 地域交流が減っている。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 高齢化してきた町内会の役員と新しい住まわれた世帯との意識のズレ、みぞが深くなった。 ・ 自分優先な方が多く、優しくない。
活動		<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 自治会入会者が少ない。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ コロナ禍でお祭り等町内会のイベントが全てキャンセル。 ・ コロナにより、地域活動の取り組みが減った。 ・ 現町内会はお神輿等のイベントなどだけに意識がいつています。
場所(施設)	<2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 芹が谷公園でのイベントが盛んになったこと。 ・ 公園に季節の花がある。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 芹が谷公園、版画美術館、工芸館についての計画が疑問。
まち・交通	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 治安がよくなり、町が美化された。 ・ 町の道路の清掃が行き届いていること。 ・ 中央商店街の無電柱化計画が具体化し、近い将来文学館通りの歩道整備計画が実現する気運。 ・ 変わりなく活気があるところがよい。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 中心市街地に地域になじまない商店(パチンコ屋・飲み屋等の遊興施設)が増えている。 ・ バリアフリーが進んでいない。 ・ 空き店舗が増えた。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ コロナ以降、空き店舗やビルの空室が増えている。 ・ 小田急線とJRを結ぶところにパチンコ店ができたこと。 ・ 両駅周辺の通路の両脇にゴミの塊が増えたこと。 ・ 駅前で商売しておりますが、町田駅前の集客力は落ちたなと感じます。 ・ 個人商店が減りパイロット店が増え特徴の無い町になった。 ・ 近郊の街と比較して、街ブラの興味が減った。
その他	<2022 年度に回答いただいたご意見> ・ オンラインが普及した。	